

インターバンクの声（2016年10月17日）

金曜日のニューヨーク市場の朝方発表された9月の米小売売上高が前月比0.6%増と、8月の0.2%減から大幅な回復を見せ、個人消費の力強さが確認された。また、9月の生産者物価指数も市場予想を上回り、前月比0.3%増とインフレ進行を示唆するような内容となった。さらに、米主要企業の7-9月期決算では、JPモルガン・チェース、シティ、ウェルズ・ファーゴの決算が相次いで発表され、1株当たりの利益が市場予想を上回り、ダウ平均株価も一時160ドル上昇する場面もあった。10/13(木)のアジア時間に発表された中国の貿易収支の内容が弱かったことから、中国経済の先行きに対する懸念が再び広がり始めていたが、10/14(金)に発表された9月の消費者物価指数と生産者物価指数が堅調だったことで中国経済への不安も和らいだ。これだけの材料が揃えばニューヨーク市場でもドル買いが続くのも当然にも感じられたが、ミシガン大学消費者信頼感指数が9月の確報値から大きく低下したことやイエレン連邦制度理事会(FRB)議長が金融緩和継続を容認かとも受け取られるような発言で円が反発する場面もあった。その後は、ダドリー・ニューヨーク連銀総裁の年内利上げを予想する発言や米長期金利の上昇で円相場も104円台に戻った。今週は105円台乗せがあるかどうか注目だ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。